

「地域の学校に通う障害児の修学旅行付添いについて」の意見とアドバイス

あるメル友から、11/30に次のような依頼メールがありました。

早速他のメル友にご意見とアドバイスをお願いしたところ、以下のように返信をいただいています。

みなさんの今後の参考までに、お目通しください。

なお、いただいたご意見、アドバイスは、今日の時点のもので、今後更にいただきましたら、追加記載します。

2006. 2. 13. 阿部幸泰

【 いつもお世話になります。

今日は、相談に乗っていただきたく、メールしました。

〇〇市に住む、中学2年生の男の子のことです。普通中学校の肢体不自由学級に在籍、女性の先生一人と生徒一人です。歩行はゆっくり可能なのですが、ほとんどは車椅子を使用しています。勉強はついていくのがつらい状況です。医療的ケアはありません。

来年5月に修学旅行で京都へ行くことが決まったのですが、急に主事の先生から呼び出しがあって、旅行中の大便のあとにおしりがふけないのなら、家族の付き添いをするように言われたそうです。

2年生の登山合宿も、結局はいけなかったのですが、歴史に興味があるので、是非、京都に行きたいと本人の思いがあります。

小便は、洋式トイレなら、自分で座って服を下ろして、また、あげて出て来れるのですが、大便のあとは自分でお尻をふくことはできていません。手関節の屈曲が難しいのです。

家では、練習をはじめて、手にトイレットペーパーを巻きつける、ウエットティッシュでなぞるようにふく、ことをトレーニングしています。

学校の要求は、ちょっと理不尽で、それなら、男性の先生が介助すれば、と思うのですが。しかし、確かに、このあと自立を考えれば、こういったことも取り組んでいくべきかもしれません。

本人は、母付きは「ださい」とのことでした。

外来で考えたことは、本人が一人で行くために、ウォッシュレットになれる、携帯用ウォッシュレットを使う、ホテルのトイレ状況、行く先のトイレ情報を、学校で一緒に調べていく、余裕のある行動予定を立てる、などです。

ご意見やアドバイスをいただけますでしょうか。よろしくお願いたします。】

【いただいたご意見、アドバイス】

①メールではかなり省略したプロフィール紹介で詳細がわからない中での返信になります。

ピントがずれていたり、言い過ぎ、不足があること、お許してください。

>>普通中学校の肢体不自由学級に在籍、女性の先生一人と生徒一人です。

基本的には肢体不自由学級の女性の担任の先生としっかりと話し合うことではないかと思えます。

肢体不自由学級があること自体、私の勤務する学校の状況とは違い、肢体不自由である子にとっては、担任が1名つくというすごいプラス状況です。

学校体制として、そのよう学級を設置しているのですから、その中で、学校行事に参加しているよう最大限の配慮と努力を学校はするべきだと思います。

>> 来年5月に修学旅行で京都へ行くことが決まったのですが、急に主事の先生から呼び出しがあって、旅行中の大便のあとにおしりがふけないのなら、家族の付き添いをするように言われたそうです。

この申し入れはどのようなタイミングでどういう流れの中で出されたものかわからないので、そこがむずかしいですが、

- ・そのお子さんは日常的に一般の学級生徒とどれくらいの交流があるのか
- ・どういう形で旅行に参加するのか。
- ・たとえば旅行中、そのお子さんは

- ・一般学級生徒といっしょに班行動、同室での宿泊になるのか、
- ・班行動はいっしょで、宿泊は別なのか、
- ・旅行はいっしょに行くが、行動、部屋は全く別で担任と1対1で動くのか。

それによってかなり対応は変わってくるのではないかと思います。

この発言からすると、学校は、同室での宿泊を前提としているように読めますが、としたら、たしかにトイレは切実な問題になります。

思春期の男子ですから、たいていの子は大便をするのには同室の子に対して結構気を遣います。

トイレ付きの部屋のトイレでせず、わざわざ部屋を出て一般用のトイレでする子もいます。

ですから自分で始末をできないとすれば、彼にはマンツーマンに近い形で教師がつく必要があると思います。

>> 学校の要求は、ちょっと理不尽で、

おそらく、「学校としては」かなり考えて「保護者同伴」という案を出していると思います。

でも、伝え方が「急」だったのだとおもわれます。そうなら学校は反省すべきでしょう。

きちんと筋と段階を踏んで学校と保護者が話せていないことをこの表現から感じます。

実際に、学校がその体制をどれだけとれるか。本人はどこまでできるのか。

そこを丁寧に話し合う必要があると思います。

それなしに「理不尽」と言われても、学校は手を打てません。

むしろその言い回しにきっと不快感を持つでしょう。

なぜなら教師の物理的数が少ないという現実があるからです。

たとえば今年の私の学校ならそれはかなり厳しい。

1クラス38名の生徒。4クラスで担任4名。校長と学年付き教師でプラス4名。養護教諭1名。旅行業者添乗3名。

全部で12名うち女性教師3名。これで140名あまりを見るのが現状です。

1室6名で30室強。なんフロアにもまたがる部屋を掌握するだけでいっぱいです。

おそらく京都ならグループ別でタクシーでも使ったの行動になるでしょうから、宿舎への帰還時間もまちまちです。

男性教師が女子生徒の部屋に巡回に行くのも、かなりの配慮を必要とする昨今、少ない女性教師で女子部屋を見、その先生のクラスの男子をほかの男性教師が見、浴室に当番でつき、その間の売店の当番を組み、夜のレク大会などのプログラムの準備を進め、とにかく多忙です。

旅行中の日程はほぼ分刻みと言っていいスケジュールで組んであるはずですが。ここで何か事件が起きればまず最小限の教師で対応し、全体の流れを切らないようにほかの教師がフォローします。

夜は私はたいていホテルの廊下に枕と毛布だけ出して寝ています。

＞ それなら、男性の先生が介助すれば、と思うのですが。

上のような体制の中、そうしたくてもできない状況もある、ということだと思います。

その学校の学年教師体制がわかりませんが、たとえば、自分の学級を担任している男性教師が、それをおいて介助で別行動するわけにはいかない。

各々の教師がめいっぴいの自分の役割をになって行動しています。

宿舎内ならまだ可能かもしれません。決めた時間帯にトイレをすますとか。

でも、旅先で錯綜した行動の中で読めない時間帯でマンツーマンでついていない教師が、そうした介助をやりきるのは至難の業です。

京都中をバラバラに行動する中でポイントをつくって点検し、コントロール、集約するので、トイレの問題を抱える子はそのコントロールのめど、あるいはケアのめどがないとグループ別行動に出せない。

それが学校としての現実ではないかとおもいます。

したがってきちんとケアするためには最大限彼に関わる物理的要員が必要です。

その要員の確保ができるのかできないのか、1番の要員である担任の女性教師がどこまでできて、何ができない、あるいは不安なのか、それをきちんと話し合い、それでカバーできないケアを学校あるいは教育委員会に求めていく。

そのねばり強い作業こそが大切だと思うのです。

>> 家では、練習をはじめて、手にトイレットペーパーを巻きつける、ウエットティッシュでなぞるようにふく、ことをトレーニングしています。

>> しかし、確かに、このあと自立を考えれば、こういったことも取り組んでいくべきかもしれない。

>> 本人は、母付きは「ださい」とのことでした。

>>

>> ウォッシュレットになれる、携帯用ウォッシュレットを使う、ホテルのトイレ状況、行く先のトイレ情報を、学校で一緒に調べていく、余裕のある行動予定を立てる、などです。

これらを担任や学年の先生と話し合い、共同しながらしていけば、解決策は出てくることがあると思います。

ただ、正直、教育行政の動きの遅さは壁になるかもしれません。

何度も何度も辛抱に辛抱を重ねて、学校の先生や教育委員会などに話していかなければならないかもしれない。

それでも、十分な話し合いをせずに「してくれない」という言い分をお互いにぶつけていくことは結局子どものためになりませんよね。

学校の言い方に違和感があったかもしれません。

でもねばり強く話していくことが一番近道ではないかと思います。

学校の教師、あるいは「学校」は学校にとってはいきなりな保護者からの要求を決して不誠実に受け止めようとは考えません。

でも、教師の置かれている状況から率直に考えた結論のほとんどの場合、状況について

は勘案されません。

その状況はあくまで「内部事情」であって、要求される側には「それはお宅（学校）の問題だ」という一言で、簡単に一蹴されてしまうことも多いのです。

あげく「理不尽」「つめたい」という言葉を投げかけられる。

ただし、その逆もたしかにあるでしょうが・・・。

目的は子どもをできるだけ楽しく旅行させてやること。

その一点で、共同できる線をいかに構築するか。

したたかな戦略が学校や委員会相手の話には必要不可欠であると思います。

学校の立場で書きましたので、うまく阿部さんに咀嚼していただいて、翻訳していただけると助かります。

①への返信

ご意見、アドバイス、ありがとうございます。

障害児の普通学校での統合教育はこれからどんどん推進されて行くと思いますが、こうした現実的、具体的問題は取り残されて、スローガンだけが走りがちですよね。

君の云う通り、お互いが素直に思いや事情の背景を洗いざらいぶちまけて話し合えば、どこかで解決策がお互いの知恵で見えてくると思うのですが、どうもお互い結論的なことだけを持ち出してぶつけ合い、お互いに「解ってくれない」と言いがち。

これじゃあ、お互いの真の理解には至りませんよね。

特に、学校側相手に親（本人）が話し合うには、ハンデイーがあります。

学校は、直ぐに主事、教頭、校長が出てきます。親は一人。

これじゃあ、親は話し難いし、立場のある方を前にすると遠慮、萎縮しがち。

親が助言、理解者を連れて行きたいというと、学校側は圧力と受け取りがちで、「なぜ、学校内のことを外部に漏らした」と親を非難しがち。

（校長、教頭、担任等の同席で親一人では、どんなに親には圧力になっているかに気づ

かないのが不思議。)

統合教育がどんどん進むところの問題は日常茶飯事に生じると言うだけに、学校側と親が対等にフラクに話し合える環境作りがぜひ必要と思っています。

時に、(行司役的な) 第三者を入れるようなシステムも必要でないかと思っています。

以前にも次のような記事を HP で発信しましたが、「強い親になれ！」とアドバイスしていますが、現実にはなかなか。

「親は、教育行政組織上の部下ではない(「雑学 BN」の時系列目次一覧[6] 2004.12.21. : 参照)」

君からいただいたご意見、アドバイスは、学校側の内部事情を親たちや福祉・医療関係者が少しでも具体的に理解する前提として参考になるとと思いますので、大変貴重なものです。

本当にありがとうございました。

②なぜ、トイレでおしりを拭く不便を男の先生は手助けできないのでしょうか。

そのことが、学校側でどういう理由でダメなのか、理解できません。

「教育活動とは、どういうことか」と、校長、教頭、主事、担任の先生にまず聞きたいなります。

トイレの始末ができないが為に、その生徒の修学旅行で得る思い出、生きる喜びを奪って、何が教育活動なのでしょうね。

親の付添いを「ださい」というこの子は、自立心が育ってきた証。学校側がそのことを喜んで支援を考えるべきこと。

口で生徒に自立心を説いても、いざ生徒がそれを示しているというのに、「親に付き添え」とは、どういう教育方針なのでしょうね。首尾一貫性のないこうした学校側の姿勢を子どもはちゃんと感じて、見抜く。「大人は信じられない」と子どもに感じさせるほど、教育活動からかけ離れたことはありませんよね。

スローガンだけの「統合教育」をいうのでなく、こうした学校活動の中での統合教育の中身を現場の先生方には、しっかり取り組んで欲しいですね。

まあ、こんなことをここで云っても、現実的、具体的には何の解決策になりませんがね。

③ MLで次のようなメールを受信したことがあります。

「校医をしている小学校に二分脊椎のお子さんがいます。このお子さん、二分脊椎のため常に尿が漏れる状態で、そのためこれまでプールは入っていませんでした。

何か、プールに入れる良い方法はありませんでしょうか。

あるいは、多少の尿漏れならプールは許可して良いものでしょうか。

詳しい方、どうぞ、教えてください。」

私の ML への返信は、

「時間毎、間歇導尿でなく、尿失禁状態の二分脊椎症のこどもさん？

おしっこ垂れ流しの子がプールに入るのは困るということですね。

管理者側の考えですね。

尿は不潔でしょうか？

常に大腸菌か何か尿路感染状態というわけではないのでは？

プールに入る前に導尿すれば、プールの間の排尿はさほど多くはないでしょう。

こどものためを考えれば、折角のプール、入れてあげるように工夫してあげたいですね。

適当なパッドをおチンチンにあてるとか？男の子ですか？

校医の先生は主治医の泌尿器科医に相談されているんですか？」

その子のために何か工夫をしようという前にダメとってしまおう、それが普通に行われているようです。

似たような話しですね。

④ アドバイスというほどのものではありませんが、自分の意見を返信できる内容の照会でしたので、返信いたします。

・まず、将来の自立のために、一人で便をふき取れるような訓練をしていくべきだと思います。

・来年5月の楽しい修学旅行までに、一人で便をふき取れることができる（見込み）であれば、ウォッシュレットのない便器のトイレを使うということで、修学旅行の計画を立てられると思いますが、そのときまでに絶対、完全にできるという見込みを立てるのは難しいのではないかと思いますので、一人でできるようになるための訓練と、メールの最後のほうに書かれたあった準備、対応を同時並行で行うということが必要ではないかと思えます。

・修学旅行まで半年ありますので、男性教諭、保護者の同行については、もう少し一人訓練の状況を見てから検討するということになるのではないのでしょうか。

⑤個人的な意見です。

・これが学校現場の実状かと残念に思いました。（学校に正義や愛がない）

私が当事者であれば、何があっても連れて行きます。

・ただ、本人に自分でできるトレーニングや補助具は必要だと思います。既存の物（ハンディ型ウォッシュレットなど）を工夫してできないものなのでしょうか。

⑥難しい事例ですが何とかしてやりたいと思うのですが・・・

あまりいい考えが浮かばないのですが、基本的には、生徒の自立を考えると、身体稼働能力を高めるための、自立の訓練をしていくことはそのとおりです。

一例として

ウォッシュレット施設の活用の場合から

・本人の排尿リズムを調べ、どの時間がそうなのか。

（ある程度確認が出来ると思えます）。

・それに伴い、旅行行程の中で利用可能な施設の確保・確認が考えられます。

・排便時間のコントロールを朝方にする。（障害者用の宿泊施設は完備していると思うのですが・・・）

ホテルは、施設の「ユニバーサルデザイン」化で、改修工事していると思うのですが。

⑦11月の30日の中2の男の子の件についてですが、この子の身体の状態や取り巻く状況、これまでの経過等がよくわからないので、的はずれのこともあるかと思えますが、同僚と

少し話をしたことをまとめてみました。

- ・修学旅行の大便の件に関して言えば、年齢も配慮して、学年や校内の中で男性教師とうまく連携が取れるように、体制を相談できるとよいのではないかと思います。

医療的ケアが必要ということなら、親さんの同行も必要かと思いますが、この子の場合には、校内での体制の工夫で対応できるのではないかと思います。（行事だけではないとも思いますが）

- ・校外ということで、学校生活とは違った配慮が出てくるのは当然なので、前もって予測できることや対応を担任と周りの先生方とで確認しておくことで、本人も教師も見通しが持てるのではないかと思います。

メールにも「行き先の情報を調べておく、ゆとりを持った予定をたてる」といった案があったかと思います。

- ・学校は、子どもたちに対し、活動をどう保障してあげられるかという視点が必要なのではないかと思います。この子が入学したという時点からそのことは考えられてきたのではないかと思います。やはり、本人の願いをかなえる方向で考えてあげたいと思います。

学校行事や学校の活動をどうするかだけでなく、日頃から学年等で、この子の生活で押さえておきたいことについて話し合いをしておけるといいですね。

- ・メールにあった案に「ウォシュレットに慣れる」等もありました。本人の今後の自立をふまえた案かと思います。修学旅行という行事だけでなく、生活において、本人の身体の状態や「思い」「願い」をふまえて、何が可能か、努力して可能か、どうしてもできないことは何かなどを考えながら、本人の「自立」「生活」をどう捉えるかを確認しておくことが、日々の中で大切なのではないかと思います。

その場合、本人を抜きにした議論はさけ、本人の思いや納得を大切にできるといいなと思いました。本人だけが努力するのではなく、学校、本人、親さんがそれぞれ何ができるのか、どんな役割を担うのかなどを整理することで、何をすればいいか見えてくるものもあるのではないかと思います。

※ちょっと抽象的な表現が多いかもしれませんが、ひとつの考えとして送ります。

⑧メール、拝見しました。

排泄の問題、深刻かつ重要な問題ですね。

以下、あまり参考にならないでしょうが・・・

私の場合は、頸髄損傷で右手が全く駄目ですが、幸い左手の握力が約 8 キロあります。
例えば箸で食事をするなど細かい作業はできませんが、排泄はなんとかできております。

ただ、お尻を拭くには、ウォッシュレットが欠かせません。

恥ずかしながら痔もありますので、入念に洗浄した後、トイレットペーパーで、更にウェットティッシュで拭くようにしています。

体勢としては、車椅子を真正面に止め、体をできるだけ前の方にずらし、前かがみになって車椅子にうつぶせになるような格好です。

いずれにしろ、洗浄便座付きの車椅子対応トイレが必須です。

排泄のことを考えると、億劫であり心配ですので、何と怪我してから 13 年、病院以外の外泊がありませんでした。

あまりお役に立てずに申し訳ありませんが、その方が、どうか修学旅行を良い思い出とすることが出来るよう、陰ながらお祈りしております。

私は、経験則のみのデータベースしか持ち合わせておりませんが、何かいくらかでもお役に立てることがあれば嬉しいです。

何とか良い方向性が見えてくるといいですね。

何かありましたら、いつでもご連絡ください。

⑨修学旅行は来年ですよ？担任が代わる可能性に期待したいような・・・。

修学旅行の目的は何なのか？と考えました。

こういう話は担任と親が1対1で話すのではなく、学年主任とか教頭先生とか、少し理解のいい先生にも同席していただくといいのではないかと思います。

本人の気持ち、ウオッシュレットの練習をしていくことなど伝えるといいですね。
本人、親御さんも努力していることも話すといいと思います。

話があちこちですが、大便是学校ですることはないのですか？

学校では我慢しているのか、排便の時間は決まっているのでしょうか？

こういうことって特別なことではなく、毎日の生活でもありますよね。

この子どもさんについて、学校はどんな指導をしていこうとしているのか？等も気になりました。

親御さんは将来どうなってほしいのか、親の思い、本人の状態、学校の指導がかみ合うといいなと思いました。

学校の規模にもよるのかもしれませんが、大きな行事の企画・運営はとても大変なことなのだと思います。しかし、本来子どものための行事であるのですから、そこを見失わないで欲しいと思います。

参考になるようなことはなにもないと思いますが、感想です。

⑩ 現実・・・の声です。

親として学校との話し合いの場面を思い出すと、みなさんの意見は大変勉強になりました。

⑪ だいぶ前のメールへの返信で恐縮ですが、手っ取り場合方針は、旅行期間中、旅行者にヘルパーをこの子供さん専門に、介護員をつけてもらうのも方法の一つと思います。

私も、これまで、2回旅行の付き添いに行きましたが、業者にとっては、修学旅行は、大口の顧客で、高校の場合だと看護婦も付きますし、これは、学校サイドの裁量ですが、介護員をつける業者を選定業者の条件にすることも考えられます。

なんか今は教育委員会に直訴のケースも多いようで、こうした方法もあるかもしれませ

ん。

【意見、アドバイスを依頼してきたメル友からの礼状】

阿部さん、ありがとうございました（阿部さんの人脈は、凄いです！）。

母親もいろいろと考えて思いあまって、外来で話してくれたのでしょう。

⑧の当事者の方のアドバイス、うれしくてありがたいです。

①の先生のアドバイスも、学校との話し合いの折に大変参考になると思います。

これまでいただいたアドバイスをまとめて、ご家族に送りました。

励まされるといいです。

【意見、アドバイスを依頼してきたメル友からの経過報告】

その後の経過です。

学校の方からは、

①トイレとその後始末については職員で対応する、

②京都の中はタクシーを利用で、本人と担任がお寺をまわる、

③ホテルでの行動は生徒たちと食事をしたり、寝る部屋も同級生と一緒にする、という配慮をした、

とお母様から連絡がありました。

そして、荷物が重い、担任と二人だけでは、もし担任に何かあったとき困るので、ボランティアを要請してほしい、ボランティアは家族が工面するように、という学校側からの要求があったそうです。

このあと、私の方から学校へ電話をして事情を聞いて見ました。

担任にボランティアの必要性と家族が工面する意味をたずねてみましたが、自分には答えられない、校長に代わるとの返事で、そのまま電話は切れてしまいました。

先週、お母様と担任と学年主事で〇〇へお出でになりました。

校内生活のことについていろいろ質問があった後、修学旅行についての話になったときにボランティアの費用や必要性をたずねてみましたが、決まったことだから、という返事で、お母様もうなづいていました。

校内生活についての質問の時には、こんな質問がありました。

こういう子のはじめてなのでどうあついたら良いのか、普通クラスの子たちが話し掛けていても彼は答えようとしなはなはなぜか、移動教室の時にその教室へ行かない、などでした。

横で聞いていたお母さんが居たたまれなくなるような、ちょっときつい言葉が多かったです。

ボランティアのことも、遠慮があつて、承諾したんだろうなと思うような雰囲気でした。

京都のバリアフリー情報は、〇〇くんが本を貸してくれました。旅行準備に学校でも活用していました。

お母様にも、その後の様子を電話できいてみます。

以上、途中経過の報告でした。

(2006.2.13.)